

「喜びの歌」出演者紹介

◆嵯峨治彦(サガ ^{ホーミー} ハルヒコ)さん [馬頭琴の演奏と喉歌]

Y.ネルグイ(モンゴル国第一文化功労者)から馬頭琴の後継指名。

伝統音楽の継承に取り組みながら、ダンス・演劇・朗読など異ジャンルとの共演も。

おおたか静流とASIAN WINGS、EPOユニットAQUANOME、タルバガン(w/等々力政彦)、野花南(w/嵯峨孝子)等でも活動。

2019年あらひろこ[カンテレ]とのデュオRAUMAが、アルバム「深い海」をリリース。



◆岡田浩安(オカダ ヒロヤス)さん [ケーナとサンポーニャの演奏]

アンデス音楽演奏家。日本を代表するアンデス音楽グループMAYAのメンバー。現在までに4枚のソロアルバム、MAYAをはじめとするグループとユニット、プロデュース作品等で10枚以上のアルバムをリリース。

南こうせつやKOKIAなどへのレコーディング参加、映画「生きない」(1999年オフィス北野)などの音楽製作、アルバム等のプロデュース、楽器のワークショップなど幅広く活動。葦工房、balsitaレーベル主宰。

【ブログ】 <http://blog.livedoor.jp/ashikouboh/>



◆吉田ユウ子(ヨシダ ユウコ)さん [歌、パーカッション、ケーナ]



1993年「ガドガド楽団」、1994年「HARD TO FIND」に参加。

1995年より「ティンクナ」のメンバー。道内外でのコンサートや常田富士男の芝居への参加など多岐に渡り活動。

HARD TO FIND、笹川敏幸の作品「TEN PLANTS 1、2」、「うたごえ愛唱名曲集」(5枚組CD、ビクター)等のアルバムやCM音楽に参加。

柔らかく澄んだ歌声は定評がある。

◆豊川容子(トヨカワ ヨウコ)さん [歌 ☆ アイヌシンガー]

帯広出身。アコースティックユニットziziのボーカルとして関西を中心に活動し、2007年アルバム「door」をリリース。

北海道に帰り、自身のルーツであるアイヌ、その歌・口承文芸を取り入れ歌い始める。

夫のルーツである平取地方のイヨンノッカ(子守歌)「60のゆりかご」の歌とアニメが、youtubeで視聴できる。



～ほろむい原野の原風景を目指して～

ほろむい

幌向地区の自然再生

消えゆく湿原、幌向原野

●幌向原野は都市化、農地化が進むなど、土地利用が急速に進化した一方、明治期には約104km²あった夕張川流域の湿原面積は約0.1km²まで減少しています。



※北海道殖民地測定報文附図、国土地理院古地図、国土地理院地形図及び国土庁土地分類図(土壤図)をもとに作成。

ほろむい七草の危機

●かつて幌向原野に生育していたほろむい七草などの湿生植物は、現在はわずかに生育するのみとなり、地域固有の湿生植物の生育がおびやかされています。



地域と連携して、昔の湿原を取り戻すための取り組みを行っています。

●湿生植物が育つ環境をつくっています。

●湿生植物を育成、導入しています。

●地域参加で導入した植物が成長、開花しています。

●ヤチヤナギを使用したクラフトビール等を試作しています。



幌向湿原再生の ^{よろこ}喜び

2023年 10月14日(土)

～幌向湿原をめぐるフットパスを開催します～

受付 10:30～

開催場所：夕張川幌向湿原再生地

プログラム

参加無料

- 午前の部 10:30～ 受付開始
開会式・挨拶
- 11:00～ 幌向湿原めぐりフットパス開始
(夕張川幌向湿原再生地～幌向湿原 約4km)
- 12:00～ 昼食 **おながい：昼食はご持参ください。**
- 午後の部 13:00～ 「喜びの歌」 嵯峨 治彦 岡田 浩安
吉田 ユウ子 豊川 容子
- 14:00～ 湿生植物移植体験
- 16:00 解散

〈主催〉ふらっと南幌、石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ
 〈協力〉国土交通省北海道開発局 札幌開発建設部 江別河川事務所
 南幌町、空知総合振興局
 〈後援〉石狩川振興財団

お問い合わせ 特定非営利活動法人 ふらっと南幌事務局 TEL: 090-3891-6675 (近藤)

北海道の水辺の
観光情報サイト



かわたび
ほっかいどう



ミズコケ君